



一般市民を対象とした普及啓発の開発と実践

研究代表者： 白阪 琢磨（国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS 先端医療開発センター）

研究協力者： 山崎 厚司（公益財団法人エイズ予防財団）

辻 宏幸（公益財団法人エイズ予防財団、国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS 先端医療開発センター）

研究要旨

1981年に米国で最初のエイズ患者が報告されて以来、エイズは世界中に広がり、多くの国々に深刻な影響を与えてきた。わが国においても1985年3月に最初の症例の報告がなされると、無知とセンセーショナルな報道から、いわゆるエイズパニック現象が起り、差別や偏見が瞬く間に広がっていった。この30年余の間、正しい知識の普及啓発、検査・診療体制の充実、研究の推進など種々の施策が採られ、特に治療の分野では著しい進歩を遂げている。にもかかわらず、一時の過剰な報道とその後の無関心から、国民のエイズに対する意識はパニック当時のままに止まっている。本研究では、HIV感染症・エイズに対する国民の意識・知識の状況を把握し、エイズに関する知識のアップデートとイメージを変えるために効果的な啓発の開発とその実践を行うことを目指し、次の取り組みを行った。1) HIV感染症に関する国民の知識の状況の調査、2) 効果的啓発手法の開発と実践、3) 地域におけるマルチセクター連携による啓発の実施。

調査の結果、HIVとエイズの違いを知っていると答えた者は57.2%、エイズについて関心があると答えた者55.0%であったが、HIV新規感染報告数を問う設問の正解者は23.7%、死の病であるというイメージを持つ者48.4%など、正確な知識を持っているとは言い難かった。また、啓発の実践として、世界エイズデー・キャンペーン「大阪 AIDS WEEKS 2018」を実施、大阪府民を中心とした近畿圏在住者に対して情報発信や啓発資料配布を行った。

研究目的

平成30年3月内閣府政府広報室から発表された「HIV感染症・エイズに関する世論調査」によると、エイズの印象として、『死に至る病である』52.1%、『原因不明で治療法がない』33.6%など、過去のイメージのままの者が多数存在することが分かる。平成30年1月18日に改正された、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針に記された「対象者の実情に応じて正確な情報と知識を、分かりやすい内容と効果的な媒体により提供する取組を強化する」に資するため、効果的な普及啓発手法の開発とその実践を行うことを目的とした。

研究方法

1) HIV感染症に関する国民の知識の状況の調査

目的：効果的な普及啓発手法の開発に当たり、HIV感染症に関する意識調査を行い、国民の知識の状況を把握する。

対象：大阪府在住一般市民、年齢5歳階級各515人、計5,665人

方法：マクロミル社のモニターパネルを利用しインターネット調査を行った。調査内容は「HIV/エイズに関する4万人の意識調査」（平成17年、gooリサーチ）から選定、改編した。なお、この調査は平成12年に実施された世論調査をベースにしている。

実施時期：平成31年1月31日～2月2日

2) 効果的啓発手法の開発と実践

目的：1の意識調査により把握された、啓発すべき内容、対象等に応じた、効果的啓発手法を検討し、実践する。

3) 地域におけるマルチセクター連携による啓発の実施

価値観が多様化し、さらに様々な情報発信ツール、メディアが発生・発達した現在において、HIV感染症・エイズに対するイメージを変え、行動の変化を促すには、行政などが単独で啓発を行うのではなく、複数のセクターが一体となって活動することが効果的であるとの観点から以下の取り組みを行った。

世界エイズデー・キャンペーン「大阪 AIDS WEEKS 2018」

12月1日の世界エイズデーに合わせて、前後の期間を「大阪エイズウィークス2018」として、エイズに関連したジャンルで活動する団体・グループ・個人が、自治体・企業・メディア等と連携しながら、気軽に参加できるものから深く学べるものまで様々なイベントや企画を運営し、市民のエイズへの関心を高めて感染拡大を防ぐとともに、感染した人々も安心して暮らせる社会の実現を目指すこととした。

公益財団法人エイズ予防財団の呼びかけに賛同した団体・グループ・個人・企業が、それぞれ（または協働して）得意分野でそれぞれの対象者に焦点を当てた企画を実施した。自治体を実施するエイズ予防週間の取り組みも合わせて広く市民に対して広報を展開し、各団体・グループ・個人・企業の広報でも情報提供を行った。

参加団体の情報共有、企画・広報調整のための連絡会をほぼ毎月1回のペースで開催した。エイズ予防財団大阪事務所が連絡会の事務局を担い、参加企画のとりまとめや広報などを行った。

(倫理面への配慮)

インターネット調査の手法は個人が特定されることはなく、内容にも個人が特定され得る臨床情報や写真などを含まないため、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の対象外である。啓発資材の制作にあたっては、HIV陽性者を含む、目にしたすべての人に不快感を与えない内容とするよう配慮した。

研究結果

1) HIV感染症に関する国民の知識の状況の調査

過去に実施された同様の調査を抽出し、内容を把握するとともに、比較可能な調査、調査項目を検討した。抽出した調査は次のとおりである。

- ①「エイズに関する世論調査」；内閣府
 - ・昭和62年5月、全国20歳以上の者7,971人
 - ・平成3年5月、全国20歳以上の者7,639人
 - ・平成7年5月、全国20歳以上の者7,347人
 - ・平成12年12月、全国15歳以上の者3,483人、調査員による面接聴取
 - ・平成30年1月、全国18歳以上の者1,671人、調査員による個別面接聴取
- ②「HIV／エイズに関する4万人の意識調査」；gooリサーチ、平成17年11月、gooリサーチモニター・一般回答者38,474人、gooリサーチを利用したWebアンケート調査
- ③「HIV・エイズに関する意識調査」；YAHOO!リサーチ、平成18年11月、Yahoo!リサーチモニター1,337人、プレ調査回答者で本調査への回答受諾者
- ④「エイズ予防のための戦略研究 都市在住者を対象としたHIV新規感染者及びAIDS発症者を減少させるための効果的な広報戦略の開発（研究リーダー：木原正博）形成調査」；平成19年度検討の結果、「HIV／エイズに関する4万人の意識調査」が平成12年世論調査をベースに、インターネットを利用して実施されていることが判明したため、二つの調査との比較をも念頭に調査項目を設定した。調査結果（単純集計）は表1のとおりである。

表 1 HIV エイズに関する意識調査結果

- Q1 あなたは、HIV とエイズの違いについて知っていますか。
- 知っている (1,257、22.2%)
 - 何となく知っている (1,981、35.0%)
 - 知らない (2,427、42.8%)
- Q2 あなたは、HIV やエイズについてどの程度関心がありますか。
- 非常に関心がある (535、9.4%)
 - やや関心がある (2,585、45.6%)
 - あまり関心がない (2,148、37.9%)
 - 全く関心がない (397、7.0%)
- Q3 日本において、2017 年の 1 年間に HIV に感染していたことがわかった人は、どれくらいでしょうか。
- 約 14,000 人 (1,521、26.8%)
 - 約 1,400 人 (1,341、23.7%)
 - 約 140 人 (291、5.1%)
 - 約 40 人 (58、1.0%)
 - わからない (2,454、43.3%)
- Q4 HIV やエイズの感染経路として該当すると思うものをすべてお選びください。
- 患者や感染者の咳やくしゃみを吸い込む (336、5.9%)
 - 患者や感染者と職場や学校で一緒に過ごす (63、1.1%)
 - 患者や感染者とキスをする (1,628、28.7)
 - 患者や感染者との性行為 (5,189、91.6%)
 - 患者や感染者と風呂、トイレを共用する (388、6.8%)
 - 患者や感染者とカミソリを共用する (2,971、52.4%)
 - 患者や感染者からの輸血や、注射器の共用 (4,587、81.0%)
 - 患者や感染者を刺した蚊に刺される (1,552、27.4%)
 - 患者や感染者と同じ鍋や皿をつつく (171、3.0%)
 - 患者や感染者からの授乳や出産 (2,772、48.9%)
 - わからない・あてはまるものはない (251、4.4%)
- Q5 あなたは、クラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかると、HIV に感染しやすいことを知っていますか。
- 知っている (678、12.0%)
 - 何となく知っている (1,658、29.3%)
 - 知らない (3,329、58.8%)
- Q6 あなた自身が、今後 HIV に感染する不安がありますか。あてはまるものを 1 つお選びください。
- 大変不安がある (235、4.1%)
 - やや不安がある (1,062、18.7%)
 - あまり不安はない (2,462、43.5%)
 - 全く不安はない (1,423、25.1%)
 - わからない (483、8.5%)
- Q7 Q6 で不安がある (a または b) と答えた方にお聞きます。HIV に感染する不安があると思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
- HIV 感染者やエイズ患者が増加しているから (624、48.1%)
 - 身近に HIV 感染者やエイズ患者がいるから (48、3.7%)
 - ウイルスによって広く感染する病気であるから (210、16.2%)
 - ワクチンなど予防薬が開発されていないから (341、26.3%)
 - HIV 感染の予防方法が確立していないから (309、23.8%)
 - 誰でも感染する可能性がある病気であるから (723、55.7%)
 - HIV 感染の予防知識が乏しいから (378、29.1%)
 - 政府や自治体の予防対策が十分とられていないから (171、13.2%)
 - 予防をしようと思わないから (35、2.7%)
 - その他 (23、1.8%)
 - 特に理由はない (65、5.0%)
- Q8 Q6 で不安はない (c または d) と答えた方にお聞きます。HIV に感染する不安はないと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
- HIV 感染者やエイズ患者があまり増加していないと思うから (74、1.9%)
 - 身近に HIV 感染者やエイズ患者がいらないから (2,140、55.1%)
 - 感染力が弱い病気であるから (200、5.1%)
 - 治療薬が開発されているから (239、6.2%)
 - HIV 感染の予防方法が確立しているから (239、6.2%)
 - 特定の人々の病気だと思うから (535、13.8%)
 - HIV 感染の予防知識があり、実施しているから (413、10.6%)
 - 政府や自治体の予防対策が十分とられているから (57、1.5%)

- i. その他 (206, 5.3%)
j. 特に理由はない (805, 20.7%)
- Q 9 「HIV感染者やエイズ患者に対する社会的偏見や差別があってはならない」という考え方についてあなたはどのように感じますか。あてはまるものを1つお選びください。
- a. 同感する (1,881, 33.2%)
b. どちらかといえば同感する (2,566, 45.3%)
c. どちらかといえば同感しない (431, 7.6%)
d. 同感しない (121, 2.1%)
e. その他 (30, 0.5%)
f. わからない (636, 11.2%)
- Q 10 もし、あなたの身近な人や友人が HIV に感染したら、あなたはどうだと思いますか。あてはまるものを1つお選びください。
- a. 従来と同様の付き合いをする (3,195, 56.4%)
b. 付き合いを減らす (859, 15.2%)
c. 付き合いをやめる (208, 3.7%)
d. その他 (62, 1.1%)
e. わからない (1,341, 23.7%)
- Q 11 もしあなたの職場 (学校) で、HIV感染者やエイズ患者と一緒に働く (学ぶ) ことになったら、あなたは受け入れられますか。あてはまるものを1つお選びください。
- a. 受け入れられる (1,890, 33.4%)
b. どちらからといえば受け入れられる (1,971, 34.8%)
c. どちらかといえば受け入れられない (692, 12.2%)
d. 受け入れられない (193, 3.4%)
e. わからない (919, 16.2%)
- Q 12 Q 11 で受け入れられる (a または b) と答えた方にお聞きます。受け入れられると思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
- a. 働く (学ぶ) 権利があると思うから (2,315, 61.0%)
b. 差別はよくないと思うから (1,864, 48.3%)
c. 感染する可能性が少ないと思うから (1,692, 43.8%)
d. 気にならないから (660, 17.1%)
e. その他 (57, 1.5%)
f. 特に理由はない (71, 1.8%)
- Q 13 Q 11 で受け入れられない (c または d) と答えた方にお聞きます。受け入れられないと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
- a. 気遣いが必要になると思うから (418, 47.2%)
b. 負担が増えると思うから (179, 20.2%)
c. 感染する可能性があるから (474, 53.6%)
d. 職場 (学習) 環境に影響がでるから (164, 18.5%)
e. 受け入れ態勢が整っていないから (251, 28.4%)
f. その他 (15, 1.7%)
g. 特に理由はない (29, 3.3%)
- Q 14 あなたは、エイズについてどのような印象をお持ちですか。あてはまるものをこの中からすべてお選びください。(複数回答可)
- a. 死に至る病である (2,741, 48.4%)
b. 原因不明で治療法がない (1,568, 27.7%)
c. 特定の人たちにだけ関係のある病気である (570, 10.1%)
d. 上記 a~c のどれも当てはまらず、不治の特別な病だとは思っていない (1,007, 17.8%)
e. 毎日大量の薬を飲まなければならない (872, 15.4%)
f. 仕事や学業など、通常の社会生活はあきらめなければならない (231, 4.1%)
g. あてはまるものはない (727, 12.8%)
- Q 15 HIV やエイズの治療方法は急速に進歩していますが、あなたは HIV・エイズに関する最新の情報を知っていますか。知っているものをこの中からすべてお選びください。(複数回答可)
- a. 適切に治療することにより、他の人へ感染させる危険性を減らすことができる (2,245, 39.6%)
b. 適切な治療を行えば、HIV に感染しても、感染していない人とほぼ同じ寿命を生きることができる (1,619, 28.6%)
c. 治療方法は進歩しているが、完治させることはできず、薬を飲み続けなければならない (1,722, 30.4%)
d. 薬の副作用はほとんどなく、通常の社会生活を送ることができる (439, 7.7%)
e. 治療薬には1日1回1錠の服薬で済むものもある (215, 3.8%)
f. 適切な治療を受けており体内のウイルス量を低値に抑えられている HIV 感染者との性行為による感染はほぼない (141, 2.5%)
g. 父母のいずれか、または両方が HIV 感染者の場合でも、子供に感染することなく妊娠・出産できる方法がある (498, 8.8%)
h. この中に知っている情報はない (2,002, 35.3%)
- Q 16 あなたは、HIV感染者やエイズ患者の友人・知人・親類がいますか。
- a. いる (44, 0.8%)

- b. いると思う (72、1.3%)
 c. いないと思う (1,831、32.3%)
 d. いない (2,963、52.3%)
 e. わからない (755、13.3%)
- Q 17 あなたは HIV 検査を受けたことがありますか。
 a. ある (838、14.8%)
 b. ない (4,827、85.2%)
- Q 18 あなたが出生時に戸籍や出生届に記載された性別は何ですか。
 a. 女性 (3,338、58.9%)
 b. 男性 (2,327、41.1%)
- Q 19 あなたが現在自認している性別は何ですか。
 a. 女性 (3,319、58.6%)
 b. 男性 (2,304、40.7%)
 c. 女性・男性のどちらでもない (14、0.2%)
 d. その他 (1、0.0%)
 e. わからない (27、0.5%)
- Q 20 あなたがこれまでに性行為を行ったことがある相手はどんな方ですか。
 あてはまるもの1つをお選びください。
 a. 女性のみ (2,055、36.3%)
 b. 男性のみ (2,755、48.6%)
 c. 男女両方 (78、1.4%)
 d. いずれもない (777、13.7%)

2) 効果的啓発手法の開発と実践

意識調査が遅れ、詳細を分析中であるため、調査に基づく介入は実施できなかった。2019年 HIV 検査普及週間に向け企画を検討中である。

3) 地域におけるマルチセクター連携による啓発の実施

世界エイズデー・キャンペーン「大阪 AIDS WEEKS 2018」

20を超える団体や個人、店舗等の参加・協力のもと11月23日(金・祝)～12月9日(日)のコア期間を含めて11月～12月の2ヵ月間、様々な取り組みが展開された。

全体広報のために、ガイドブック15,000部、ポスター1,000部を作成し、参加団体や関連協力店舗、近畿2府4県+三重県の拠点病院、近畿1府4県+三重県(大阪府を除く)の保健所設置自治体等に送付した。また公式ページに全実施企画を掲載し、さらにFacebookとTwitterを通じても、情報の拡散に務めた。

主な「大阪 AIDS WEEKS 2018」参加企画は以下のとおりで、イベントやキャンペーンにより、大阪府民を中心とした近畿圏在住者に対して情報発信や啓発資材配布を行った。

(1) ラジオ番組『LOVE+RED』

放送：FM OH!

放送日時：毎週土曜日 21:00～21:30

(2) 第25回 HIV/エイズ レッドリボンキャンペーン

主催：THE BODY SHOP

期間：12月1日を中心として

内容：関連イベントとコラボレートし、ハンドトリートメントを提供

(3) 大阪エイズウィークス 2018 協同街頭キャンペーン

出展代表：公益財団法人エイズ予防財団

協同出展：エイズ予防週間実行委員会(大阪府・大阪市・堺市・高槻市・東大阪市・豊中市・枚方市・八尾市)、THE BODY SHOP、FM OH!

協力：スマートらいふネット、薬と医療の啓発塾、Positively、法円坂メディカル、chotCAST、LETTErARTS、大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター

日時：11月4日(日)14:15～16:15

(4) 女性スタッフによる女性のための検査・相談 特別企画『レディースデー』

主催：特定非営利活動法人スマートらいふネット

日時：12月17日(日)17:00～18:30 受付

(5) 『大人の文化祭』愛とSEXのオープンスクール!

主催：レットテルアーツ実行委員会

日程：11月25日(土)14:00～20:00

(6) 大秘宝展(エロティックアート展)

主催：レットテルアーツ実行委員会

期間：11月29日(木)～12月9日(日)

(7) HIV/エイズ電話相談(特設)

主催：特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター

共催：大阪検査相談・啓発・支援センター
chotCAST

日時：11月26日(月)～12月1日(土)18:00～20:00

(8) 専門家とおしゃべりイベント「しゃべるかあ」

主催：MASH大阪

日程：11月3日(土)、10日(土)、24日(土)、
12月8日(土)、15日(土)、22日(土)

(9) Out-reach「U=U poster's」

主催：MASH大阪

日程：11月1日(木)から

(10) 展覧会「淫画～田亀源五郎個展」

主催：MASH大阪

日程：11月17日(土)～12月16日(日)17:00～22:00

(11) 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 世界エイズデー【一般公開 HIV/エイズ啓発特別イベント】『零を共に Toward Zero』

主催：第32回日本エイズ学会学術集会・総会

日時：12月1日(土)・2日(日)

(12) デジタルサイネージ(液晶電子広告)掲出

実施主体：エイズ予防週間実行委員会(大阪府・大阪市・堺市・高槻市・東大阪市・豊中市・枚方市・八尾市)

期間：11月26日(月)～12月2日(日)

(13) ゆるキャラグランプリ2018 エントリー

実施主体：エイズ予防週間実行委員会(大阪府・大阪市・堺市・高槻市・東大阪市・豊中市・枚方市・八尾市)

内容：東大阪市で開催されたゆるキャラグランプリ2018に大阪 HIV 啓発マスコットキャラクター「アイヤン」をエントリー

(14) 健康相談&体験フェア

共催：特定非営利活動法人薬と医療の啓発塾、法円坂メディカル

日時：12月1日(土)・2日(日)13:00～16:00

(15) 公開セミナー「おひとり様も、そうじゃない人も『自分らしく地域で暮らす』～繋がる・繋がれない・繋がらない生き方～

主催：関西 HIV 臨床カンファレンス カウンセリ

ング部会

日時：12月24日(月・祝)15:00～18:00

キャンペーンの実施による効果を直接的に測ることは難しいが、大阪府内の保健所等 HIV 検査実施機関での HIV 検査受検者の動向をみると、11月、12月の受検者数が増加していた。



図1：大阪エイズウィークス2018ポスター



図2：共同街頭キャンペーンでの配布資材セット

表 2：資材作製・配布数

種類・名称	作製配布数
大阪エイズウィークス 2018 ガイドブック	15,000
大阪エイズウィークス 2018 ポスター	1,000
啓発用クリアファイルバッグ	7,000
啓発用コンドーム オカモト/JEX	5,000
パンフレット おおさかエイズ情報 NOW	2,000
啓発用他ポケットティッシュ (chotCAST/ 行政)	5,000
各団体イベントチラシ (3 種)	11,000

健康危険情報

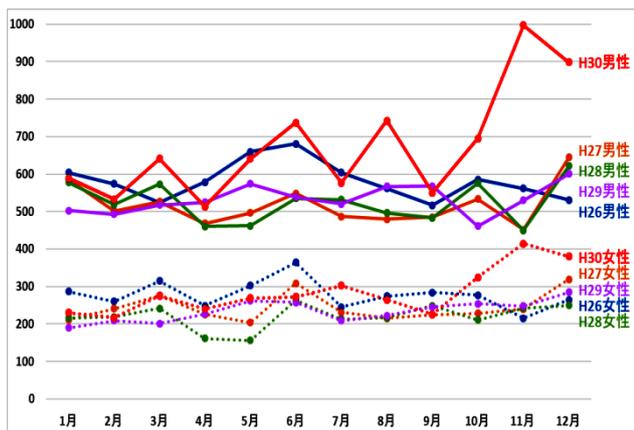
該当なし

研究発表

該当なし

知的財産権の出願・取得状況

該当なし

図 3：大阪府自治体 HIV 検査数の推移
(chotCAST、クリニック検査除く)

考察

意識調査の結果、HIV とエイズの違いについて、「知っている」「なんとなく知っている」と答えた者は 57.2%、エイズについて、「非常に興味がある」「やや興味がある」と答えた者 55.0%であったが、2017 年の HIV 新規感染報告数を問う設問の正解者は 23.7%と正確な知識を持っているとは言い難かった。また、「死の病である」というイメージを持つ者が 48.4%と、半数が過去の情報のままに止まっていた。また、大阪府内の保健所等 HIV 検査実施機関での HIV 検査受検者の動向をみると、11 月、12 月の受検者数が増加しており、啓発実施時期と重なっていた。エイズに対する偏見や差別を解消し、予防行動や検査受検を促進するためにも啓発による知識のアップデートが必要であると考えられる。

結論

意識調査の詳細な解析は次年度以降実施していくが、国民のエイズに対する意識はエイズパニック当時のままに止まっているものと考えられる。エイズに関する知識のアップデートとイメージを変えるために効果的な啓発の開発とその実践が必要である。